

外国語教育研究センター2010 年度講演会記録

言語教育における複言語主義と語学ポートフォリオ ——CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の理念と実践——

2011年2月22日（火）、金沢大学総合教育棟一号館会議室において、本センター主催の第2回講演会を開催しました。テーマは、「言語教育における複言語主義と語学ポートフォリオ——CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の理念と実践——」です。京都大学の西山教行先生と大阪市立大学の福島祥行先生にお話を伺いました。

金沢大学外国語教育研究センターでは、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の研究を進めています。語学教育の明解な到達目標の設定や、厳正な成績評価の実現という私たちの目標に、CEFRは役立つと考えるからです。そこで、昨年度は到達目標と成績評価に関するシンポジウムを開催し、CEFRの概念や対象言語でできる事を表記したCan-Do表などを使った到達目標の示し方について、大阪大学、広島大学、慶應義塾大学の先生方にお話をうかがいました。そして、昨年度末には学生に配布するためのCEFR表を作成し、今年度はこのCEFR表を使った英語力の自己判断アンケートを学生に行いました。今年度の講演会は、CEFRへの理解を更に深めるためのものですので、上記シンポジウムの延長線上にあるものといえます。

明解な到達目標の設定や厳正な成績評価は、どちらかというと言語側の問題と言えますが、CEFRの考えかたには教員だけでなく学習者の言語に対する考えや意識を大きく変革する力もあります。CEFRは方言や年代別の話し方も含めたさまざまな言語を意識し、学内外でのそれらの学習・体験をライフスパンで考えるので、学習者の言語意識や自律性の向上に寄与すると思われるからです。そこで、今回の講演会では、CEFRの理念ともいえる複言語主義の考え方と、その実践の形であり学習者の自律性を高める道具ともいえる語学学習ポートフォリオに焦点をあて、この分野に深い知見を有せられる西山先生と福島先生に、「外国語教育と複言語主義」「外国語教育における学習ポートフォリオの活用——初級フランス語における導入の試み——」という演題でご講演いただきました。

言語と人間の関係を複層的に捉え、学習者の学習意欲を高めるヒントをたくさん得られた講演会でした。本講演記録は、講演を録音し文字起こししたものです。（文責 大藪加奈）